

日本結核病学会北海道支部学会

—— 第63回総会演説抄録 ——

平成25年2月23日 於 札幌医科大学記念ホール（札幌市）

（第105回日本呼吸器学会北海道支部会
第19回日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会北海道支部会 と合同開催）

支部長 大崎 能伸（旭川医科大学病院呼吸器センター）

—— 一般演題 ——

1. 経皮的ドレナージによって軽快した結核性腸腰筋膿瘍の1例 °錦織博貴・山田 玄・池田貴美之・藤井 偉・猪股慎一郎・千葉弘文・高橋弘毅（札幌医大医内科学第三）廣川直樹（同放射線医学）

症例は24歳男性。腹痛を主訴に当院を受診した。腹部リンパ節と縦隔リンパ節腫大があり、生検を行ったところ、壊死を伴う類上皮細胞肉芽腫を認め、結核性リンパ節炎と診断された。INH, RFP, EB, PZAで治療を開始したが、治療開始9カ月後に腹痛が出現し、腹部CTで右腸腰筋膿瘍を認めた。経皮的ドレナージをCTガイドで行い、病変は徐々に縮小した。結核性腸腰筋膿瘍の初期治療に内容液のドレナージを考慮するべきと思われた。

2. 性器結核とイレウスを合併した肺結核の1例 °西垣 豊・高橋政明・武田昭範・藤内 智・藤田結花・山崎泰宏・藤兼俊明（NHO旭川医療センター呼吸器内）

症例は58歳女性。発熱、嘔気・嘔吐、体重減少を主訴に近医受診。原因検索目的で先にGFが施行され胃液から結核菌を検出、その後の喀痰検査でもG10号相当の菌を検出し当院へ転院となる。画像所見では両肺野の浸潤影と多量の両側胸水、さらに卵巣・卵管の腫大と腸管イレウス、限局性腹水貯留も認めた。膈分泌物からも結核菌を検出し、性器結核を合併した肺結核と診断した。肺外結核の中でも稀とされる本症例について報告する。

3. 肺結核治癒後に発症した肺 *Mycobacterium shinjukuense* 感染症の1例 °加藤宏治・小林智史・石川立・山添雅己・高橋隆二（市立函館病呼吸器内）

症例は67歳女性。左上肺野の陳旧性肺結核で近医に定期受診していたが、左中・下肺野に浸潤影の出現を認め、肺結核再発が疑われたため当科へ紹介受診。喀痰抗酸菌塗抹染色G1号であったが、結核菌PCR陰性、DDH法でも同定に至らなかった。その後、16S rRNA, *hsp 65*の遺伝子配列より、*M. shinjukuense*と同定された。稀な菌種であるため、文献的考察を加え報告する。

4. 大学学生定期健康診断における留学生の結核性所見に関する検討 °本田 明（北見工大保健管理センター）早川吉彦（同工学部情報システム工学）上村友也（札幌複十字総合検診センター）

わが国の外国人結核患者の発生は増加傾向で、20歳代でアジア出身に多い。本学でも留学生が増加し、健診からみた留学生の結核性所見陽性者につき検討した。国別留学生数では結核高蔓延国からの学生が大勢であった。2009年から4年間の定期健診受診学生の画像等から、留学生の胸部画像所見の有所見率は3.1%で、結核性陰影陽性者の割合は1.3%であった。留学生には、入学時に出身国、家族歴等の問診、診察、健診の着実な施行を要する。